

SHIDAI

magazine 2010

公共マネジメント学科 いよいよ始動!

受験生のみなさんへのメッセージ

学長 荻野 喜弘



下関市立大学は規模の小さな単科大学で、ふれあいを大切にしています。本学は基礎・教養教育の充実、自発学習の推進、卒業論文の研究発表会などユニークな教育を展開し、また「生きた教育」を重視する立場から、商店街に設けられたサテライトキャンパスでの活動や職場体験の機会であるインターンシップにも積極的に取り組んでいます。本学には全国各地からの出身者や留学生が多く、下関に居ながら様々な学生たちと知り合うことができます。

このような切磋琢磨の結果、本学は就職に強い「市大」という評価を得てきました。

平成23年度の最大のトピックは公共マネジメント学科の新設です。この学科は公共的ニーズに応える人材、具体的には行政人、パブリック感覚を持った企業人、NPO職員などを育成することを目的にしています。ぜひチャレンジしてみてください。

将来に対する高い志をもった高校生諸君!

下関市立大学においでませ。

2010年4月1日

発行

下関市立大学広報委員会

〒751-8510 下関市大学町2-1-1

TEL. 083-252-0288

FAX. 083-252-8099

<http://www.shimonoseki-cu.ac.jp>

キャリアセンターから2009年就活レポート

2009年度就職活動を振り返って

キャリアセンター長 上野 恵美



2009年度卒業予定者の就職率は、2010年3月8日現在で86.35%となっています。2008年秋のリーマン・ショックから1年あまり、急激に縮小していった2010年度の新卒採用市場は、その後好転することなく、終盤を迎えようとしています。本学でも、昨年同期で7ポイントの減となっていますが、昨年に引き続き、学生の多くが、金融機関等大手優良企業への就職を決めています。今年度については、これ以降3月末までの内定率の伸びは、厳しいものと予想されます。

本学学生の就職の特徴は、金融機関への就職率の高さです。金融機関が採用人数を減らす傾向にある中で、29.1%の学生が就職を決めています。続いて、商社・小売の22.7%、サービス業の12.9%となっています。例年メーカーが3番目に多かったのですが、今年度は製造業の不振から、メーカーが4番目で9.2%となりました。公務員については、国税専門官、中学教員、防衛省職員をはじめ、市役所や警察、自衛隊幹部候補生などに合格者がでています。

2009年度 卒業生の主な就職先



■ 金融

朝日生命保険相互会社、(株)かんぽ生命保険、第一生命保険相互会社、(株)中国銀行、中国労働金庫、西中国信用金庫、日本政策金融公庫、日本生命保険相互会社、(株)広島銀行、(株)福岡銀行、福岡ひびき信用金庫、みずほフィナンシャルグループ、明治安田生命保険相互会社、(株)山口銀行、郵便局(株)、(株)りそな銀行、など

■ 卸・小売

旭食品(株)、(株)イズミ、(株)サンドラッグ、瀧定大阪(株)、(株)トーホー、(株)阪急阪神百貨店、など

■ 製造

旭化成(株)、大日本住友製薬(株)、タカラスタANDARD(株)、(株)長府製作所、日本新薬(株)、日本たばこ産業(株)、林兼産業(株)、丸紅エネルギー(株)、など

■ 公務

名古屋国税局、防衛省職員行政(航空)、兵庫県中学教員、市役所(北九州・小松島・下関・多久・吉野川)、自衛隊(海上・航空・陸上)、警視庁、警察(岡山・鹿児島・京都・鳥取・広島)、など



■ その他の業種

(株)ANAエアサービス東京、(株)ANAセールス九州、(株)インフォテックノ朝日、上組(株)、北九州商工会議所、(財)休暇村協会、九州旅客鉄道(株)、(株)九電工、佐賀県医師会、JFEシステムズ(株)、JTBトラベランド、(株)JALナビア福岡、(株)ゼンショー、中電プラント(株)、TIS(株)、西日本旅客鉄道(株)、日商エレクトロニクス(株)、日本赤十字社佐賀県支部、日本郵政(株)、みずほ情報総研(株)、郵船航空サービス(株)、郵便事業(株)、(株)読売旅行、ワタミフードサービス(株) など

卒業生からのメッセージ



自分の道は自分でつくる

経済学科 肥中 薫梨 (特待生)

「自分の道は自分でつくる」。これは中学時代の恩師が卒業する時に私にかけてくださった言葉です。そして私はこの言葉を励みに4年間過ごしてきました。

大学は自由で楽しいところです。何を学び、何に大学4年間を費やすのか、それらはすべて自分で決めることができます。「自由」を得て、入学当初は戸惑うこともあると思いますが、すべて自分の判断で行動できる19歳から22歳までの大学4年間は何ものにも変えることのできないとても貴重な時間だと思います。ですから、大学4年間を何となく過ごすのではなく、色々なことに貪欲に取り組んで有意義な大学生活を送ってください。



大きな可能性を秘めた皆様へ

国際商学科 小野 勇樹 (前学生会会長)

我が下関市立大学は1956年、若者の「学びたい」という意志の下誕生して以来、若者の「学びたい」という意志の下半世紀を辿ってきた、長い歴史を持つ「能動的学び舎」です。そのような学び舎では、

学生が自分自身で、昨日を考え、明日を考え、そして今を考えながら、様々な活動を行えています。その活動の一つでもあり、完全に学生が主体となり行っている活動が、部活動、サークル活動です。我が大学には、他大学に勝るも劣らない素晴らしいサークルが多数存在します。私も、4年間、とりわけサークル活動を通して、この先の人生の「土台」を築くことができたと思っています。

「なくてはならない大学」という目的地へ舵を切ったこの「能動的学び舎」には、大きな可能性を秘めた皆様の、大切な「土台」を築く為の、主体性ある4年間が待っていることと思います。



大学生に向けて

経済学科 町田 達哉 (兵庫県教員採用試験合格)

大学生の楽しみは、自分でやりたいことができることです。

時間割を決め、授業の終了後や空いた時間で、部活動やサークル活動、アルバイトも恋愛も本当に自由にできます。

高校生とは違って時間に拘束されることなく、自分の時間を持つことに大きな違いがあると思います。私もあり余る時間を使って鹿児島や出雲など様々な場所に旅行に行き、とても思い出に残っています。

また、下関市立大学は大きい大学ではないので、“学生と先生との距離が近い”というのも特徴だと思います。そのおかげで今では先生と一緒にコーヒーを飲みながら話してバカ笑っています。先生と話すのもアリだと思いますよ。

一生懸命勉強して大学に入ってください。そして、時間を使った遊びをして、一生の思い出を作ってください。

教員からのメッセージ

大学で何を学ぶのか？

准教授 中川 真太郎



「大学で何を学ぶのか」というのは、意外に難しいテーマです。私自身、大学時代に学んだことを思い出してみますと、経済学の知識以外に、高校までの勉強では得られなかったこと、大学でしか得られなかったことが、多かったように思います。

では、何を学んだのか。もちろん、アルバイトやサークル活動を通じて社会の仕組みやチームプレイを学んだこともあげられます。しかし、最も大切なことは、自分で考え自分の意見をたて発表する力を身につけられたことだと思います。経済学は、現実の経済を扱う学問です。経済に関わる多くの問題について、自分で考え、意見をまとめることが出来るようになったことが、私にとって大学で得た最大の成果でした。

知識は、本を読むことでも身につけることが出来ます。しかし、考える力や発表する力は、ゼミナール形式の少人数授業や自主的な研究でないと中々身につけません。本学では、教養や経済学の様々な講義に加えて、基礎演習、教養演習、専門演習というゼミナールや、学生と教員との共同自主研究の仕組みなど、充実したカリキュラムを用意しております。是非、みなさん自身が、本学で、考える力、意見をまとめ、発表する力を養って下さい。

「既知」からのスタート

講師 中川 圭輔



ある日、講義を終えた後、一人の女子学生が声を掛けてきた。「先生、今一番人気のある韓流スターは誰ですか？」「えーっと……」思わず返答に窮してしまった。

一般的に、大学では講義で学んだことをきっかけとして、その内容に興味をもつ学生が数多くいる。学生にとっては、未知の世界に接することで新たな好奇心が生まれる。そして、さらに学びたいという心境から書の泉へと足を踏み入れる。

ところが、私が担当している韓国の科目では少々事情が異なる。学生が結構詳しいのである。すべては日本で一大旋風を巻き起こした現象……そう“韓流”の影響だ。

学生は“韓流”によって、テレビドラマや映画など韓国文化に触れる機会を得た。つまり、大学でありがちな「未知」から「既知」への流れがここでは通用しないのだ。

しかし、大学での学びは、決して「未知」からのスタートだけではない。どんな形であれ、まずはその世界に飛び込んでみる。その後で、「なぜなのか？」と疑問を感じつつ講義を受講することもまた学びのスタイルなのかもしれない。

最後に、蛇足ではあるが冒頭の私の答えは安聖基（アン・ソング）だった。なぜなら、彼は「国民俳優」と呼ばれ、不動の人気ぶりだから……。

2011年4月 公共マネジメント学科を新設!



『みんなのために…』を考えるのが「公共マネジメント学科」です。みんなのために何をすれば、人々は幸福に暮らせるようになるのでしょうか。それを実現するためには、どのような方法があるのでしょうか。

本学が考える公共マネジメントとは、「公共の場」における複雑で多様なニーズを把握し、最適な意思決定を行うこと、そして実現可能な案をプロデュースし、結果として良質なサービスを公共の場に提供し続けるマネジメントのことです。

しかし、公共の場というのは、個人の最適が全体の最適にはならない「社会的ジレンマ」を抱え、「利益相反する利害関係者」がそれぞれに主張を繰り返すところ。そのような状況で、率先してマネジメントを遂行

できる人物こそ、公共マネジメント学科が目指す「問題解決能力を持つ人材」なのです。

それは、「行政」「企業」「非営利コミュニティ」という異なるセクターにある複数の組織を、同時にマネジメントする「高度な能力を有したマネジメント人材」であり、利害関係者を調整し統合する「公共マネジャー」です。

すなわち、公共マネジメント学科が養成する人材とは、「企業的な経営能力を身につけた行政人」「社会的責任と公共的調整能力に秀でた企業人」「戦略的マネジメントができる非営利組織人」「まちづくりのノウハウに優れた地域コーディネーター」です。

公共マネジメント学科は、社会が抱える課題に広く関心を持ち、既成概念にとらわれない柔軟な思考と、分け隔てなく様々な人とコミュニケーションができる、思いやりを持った学生を求めています。



新校舎建設。管理・研究棟が生まれ変わります



新校舎完成予想図

本学では平成22年10月着工・24年度より供用開始の予定で、新校舎の建設を計画しています。

学問領域を超え、地域交流・国際交流・情報発信等の拠点としての役割を担う大学としての存在を地域にアピールするため、新校舎は正門の正面に配置される予定です。

新校舎は鉄筋コンクリート造り5階建て、延べ床面積は6,337㎡となる予定で、外観は平成11年に国の重要文化財に指定された旧下関英国領事館をイメージして設計されています。これは旧下関英国領事館の「石と

赤レンガのコントラスト」、「列柱を持つベランダ」等の特徴的な歴史的デザインの継承と現代的な材料との調和をはかり、歴史的な重厚感を持ち合わせた現代的建築物を目指しています。

キャンパス内は下関市の花木である桜・ツツジに囲まれたキャンパスプラザやオープンスペースなどが設けられ、学生のみならず、本学を訪れる全ての方々に、「集いの場」、「憩いの場」を提供します。

大学を体験しよう!! 下関市立大学オープンキャンパス2010

下関市立大学では今年もオープンキャンパスを開催いたします。

実際にキャンパスを歩き、疑問に思うことを教職員や学生に直接ぶつけられる良い機会です。皆様のご来訪をお待ちしています。

日程：7月11日(日)、24日(土)

時間：10:00～15:00(受付9:30～)

全体説明会、模擬講義、大学語学入門、個別相談、学内施設ツアーなどを企画し、記念グッズ、無料ランチなども準備しています。

当日は、新下関駅、幡生駅より、無料送迎バスを運行します。

※詳細は事前にHP等でご確認ください。

